



軽費 / 特養 / 高齢者在宅サービスセンター / 高齢者専用賃貸住宅 / ケアハウス / グループホーム / 小規模多機能

No. 297号 60周年記念号

2011(平成23年) 5月

〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 TEL 042-527-0031(代) FAX. 527-2646
発行人: 橋本正明 編集: 広報委員会
ホームページ: <http://www.shisei.or.jp/> Eメール: shisei-home@shisei.or.jp

Shisei Senior Service Center

至誠ホームの還暦を祝う

至誠ホーム長
橋本正明



至誠ホーム
(至誠老人ホーム)の種が
蒔かれたのは
朝鮮戦争の最
中、基地の町
立川が騒然と

していた時期でした。第二次世界大戦で家族を失い、そして戦後社会の混乱の中で生きていく術を失ったお気の毒な老人方が生活する場でした。そんな老人方を世間の荒波から護り、穏やかな入り江のようなどころで人並みの生活が出来ることを願って、創設された施設でした。昭和26年(1951)5月のことです。

私はそのとき6歳でした。最初の建物は戦中の少年寮舎を改造した木造の建物でした。水は井戸から、ご飯はかまどで炊いていました。お風呂はお爺さんが廃材を引いて焚き、空き地では畑が耕され、芋や陸稲が育てられました。もちろん自家用です。残飯で育てる豚は時折逃げ出し、まだ交通量の多くはなかった甲州街道を逃げ回りました。お婆さんは調理場に入って調理のお手伝いをしました。お年寄り32名、職員は故橋本良市元理事長、

橋本富美子元和光園長、そして花房和枝さんという職員だけの今流行の小規模老人ホームでした。まさにそこにはお年寄りの共同の生活があったのです。上の妹の春山順子現和光園長や下の妹の元診療所職員の原智子さんなど、お年寄りに可愛がられて育ちました。この頃が至誠ホームの揺籃期だったのでしようか。

昭和30年代に入り国民皆年金、皆保険が制度化し、老人福祉法が昭和38年(1963)に施行されだんだんホームの生活も変わってきました。老人ホームでも「余暇の活用」などというテーマが盛んに論議され、クラブ活動や旅行などが取り入れられました。至誠老人ホームには軽費老人ホームが同年併設され、身体的には自立した利用者の老人ホームでの生活の安定と充実を図った時代でした。至誠ホームが少年から青年に向かった時代といえます。橋本良市、富美子夫妻にとっても一番充実した仕事に打ち込んだときであったようです。

老人福祉法施行から10年、有吉佐和子の「恍惚の人」が大ベストセラーとなったのは昭和47年(1972)のことです。日本での老人問題は貧困問題から家族問題へ、そして地域

での介護問題となっていくのです。至誠ホームがいよいよ新しいステージに入っていく時代です。それまでの老人ホーム内での仕事から地域の中で、地域に支えられ、地域を支える大きな役割を持つようになっていったのです。昭和52(1977)年、自治体との連携から地域の人々が利用する至誠特別養護老人ホームと在宅の介護サービスを提供するセンターが併設されました。正に日本の高齢者福祉サービスの最先端の先駆的な事業展開でした。それは北欧の高齢者福祉サービスから学び、高齢化社会に突入した日本での実践の一つのモデルとなった事業でした。

平成に入り、至誠ホームは大きく成長を遂げました。それまでの基盤の上に大きな花を咲かせることが出来ました。キートンホーム、スオミ、ミンナと常に先駆的な事業に取り組み、優秀なスタッフを育成し、組織的な運営も軌道に乗っています。地域からも利用者からも大きな信頼を得ています。至誠特養以降の34年間は働き盛り、今成熟期の至誠ホームです。

さて、今年60周年、還暦を向かえ至誠ホームは新しい時代に入ります。本年度は新たに調布市に拠点を設け次のステップに備えます。そして数年後には老朽化した至誠特養のリニューアルと錦町地区で児童福祉と連携をとった新しい複合事業に取り組みます。新しい時代となっても時代を先駆ける至誠ホームの松明を掲げ続けて前進をしていきたいと思えます。これからも皆様のご理解とご支援を心からお願いをいたします。



カットボランティアの近藤庄司さん

社会の中で開放的な運営にして行こうとされたことから進められました。特に昭和52年の錦特

至誠ホームとボランティアさんの関係はとても強い絆で結ばれています。至誠ホームでボランティアさんを積極的に受け入れるようになった背景には、元理事長で前ホーム長の橋本良市先生が、それまで閉鎖的とみられていた施設を社会の福祉資源として風通しを良くし、地域



中藤ボランティア会の手作り作品

至誠ホームボランティアとともに 60周年によせて

企画推進本部長 岡田 清

養開設後、専任のボランティアコーディネーターを配置することによって沢山の方々の活動が始まりました。

当時は地元の社会福祉協議会においてもまだボランティアコーナーとかボランティアレビューは設置されていませんでした。さらにボランティアの育成について至誠ホームでは先駆的に「ボランティアスクール」を企画開催し、活性化が図られました。

本誌のバックナンバーにおいても、ボランティアさんの役割、活動について理解と協力を得ることを目的に橋本良市先生がいくつかの標語を作成され、毎

号異なる標語を紹介



傾聴ボランティアの江口由美子さん



スズキ・メソード 松井バイオリン音楽教室コンサート

「ボランティア」です。それまでの施設の閉鎖的なイメージを払拭するには、ボランティア活動をされる地域の方々に施設の中に入っていたり、施設での生活の様子、生活援助の様子、看護・介護の様子を体験していただき、客観的に施設の様子を地域に持ち帰っていただき、正確な理解を地域の方々に行っていました。

介されていまして、中でも特に印象に残っています。「ボランティアは地域と施設の架

当時は、施設にボランティアさんが入ると、活動してもらうのに職員の間がかかるとか、施設の内情を見られたくないとかで、受け入れに消極的な施設が沢山あった時代ですが、至誠ホームは積極的な姿勢でボランティアの育成と



配食ボランティアの大島昭雄さん

活動の場の提供を進めてきました。

その後、現橋本正明ホーム長の時代になり、「ボランティアさんは事業運営に対しての労働力ではなく、共働のパートナー」としての役割にも注目しなければならぬことが強調されました。

さらに、昨年度制定された「至誠ホーム憲章」においても利用者はスタッフ、利用者のご家族、ボランティアさんの協力による心温かいケアが受けられることが謳われ、ボランティアさんとの絆の重要性が明確化されました。

これからもボランティアの皆さんとともに福祉社会を築いていきたいと願っています。



ボランティアの篠村綾子さんと渡部沙織さん

東日本大震災において被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。至誠ホームでは、宮城県仙台市若林区の特別養護老人ホーム「杜の里」へ支援のため、職員を派遣致しました。



ボランティア活動を通して

橋本ライヤ

「ボランティアの心」

老人ホームでの介護はプロの方が担当しています。でも毎日の生活の「スパイス」、それは楽しみ、息抜き、外の風を運んで来るのはボランティアです。私はずっとそう信じて活動してきました。40年近い経験から、ここ至誠ホームではその協力体制がよくできていると私は思っています。昔、利用者からリクエストがありました。それは至誠ホームとフィンランドの老人ホームとの交流を持ちたいとのことでした。マーガレットクラブの誕生でした。今も続いている賛美歌クラブと英語クラブの誕生も同じでした。賛美歌を歌いたい、英語を習いたい、というお年寄りの希望にこたえたのです。

ボランティアの仕事は一方的なものではありません。私たちもお年寄りから「微笑み」の贈り物を毎回いただくのです。特に大災害のあったこの春、私を含めてボランティアのみんなはお年寄りの喜んでる顔からたたくさんのパワーをいただきました。



賛美歌クラブの活動

Sさんは、昭和60年頃のデイホームご利用のおひとりでした。小柄な女性で、いつも関節リウマチの痛みが四肢にあり、両脇から支えられてようやく移動が出来る、そのような身体の状況ながら、笑顔とさり気無い言葉かけで、その場を明るく、あたたかい雰囲気にして下さっていた方でした。

ボランティアについて、いろいろと考えることが多くなった後年、いつも思い浮かぶのが、Sさんの笑顔でした。

今、私はケアハウス・スオミに住んでいます。住まいとボランティア活動の出来る場が近いことを、何より有難いと思いつつ、いくつかの活動に参加しています。何れの活動のちも、達成感と充実感を持てるのが嬉しく、それが活動のエネルギーになっています。

「ボランティア」

佐藤 美智子



編み物クラブの活動

ボランティア活動をしている、スオミの友人からも「活動することによって老いのプロセスが見えるようになった。」そのような言葉を聞きます。私自身も年々体の弱まりを意識していますが、活動による充実感が、これからの日々大きくプラスされていくものと、確信しています。

Sさんの、ボランティアを意識しない自然さが、これからの私の目標です。

ボランティア交流会を

おえて

ボランティアコーディネーター
寺澤 育代

2月24日、至誠ホーム錦地区でボランティア交流会が行われました。

前半の第1部では、「至誠ホームが目指すものー利用者・援助者が共に生きる生活づくり」というテーマで橋本正明ホーム長の講演がありました。その内容は、至誠ホームの歴史や信念、開設60周年を迎えるにあたっての記念事業の構想、そしてボランティアの皆さまにどのような期待をしているかというものでした。また、至誠ホームの先駆的取り組みの紹介として、グループホームのNHK番組ビデオも上映さ



橋本ホーム長の講演



交流会風景

れました。

ボランティア担当者からは、現在行われている活動の様子を映像を交えて紹介しました。

お昼をはさんで第2部では、ボランティアさん同士や、職員との交流会を持ちました。自分の行っている活動の様子などを語り合う情報交換の場となりました。

講演内容については「創始者の志が脈々と受け継がれてきた経緯を知り、感動しました。」「スタッフの利用者への接し方によって、利用者の方々がいきいきとされていける様子が驚きました。」などの意見をいただきました。

またご参加いただいたボランティアさんの中には30年を超えて活動してくださっている方もいらっしゃり、若い職員にはそのお話をうかがえたことがとても勉強になりました。

「利用者、ボランティア、職員が共に生きる素晴らしい場所をみんなで作っていきましょう。」と皆さまからエールをいただき、これからも地域の皆さまのお力をお借りし、よりよい施設を作っていきたいと思えました。



サービス向上委員長 宮本 智行

去る3月8日(火)、立川市女性総合センターアームにて、第16回至誠ホームサービス向上大会が開催されました。

この大会は至誠ホームの職員が、日々提供しているサービスの質の向上を目指し、1年間かけて取り組んできた成果を発表し、至誠ホームの高齢者ケアを広く知って頂くために毎年行われているものです。

当日は、至誠ホーム内外の100名を超える方々が来場され、大変盛況な大会となりました。

今回発表のサークルは、全16サークルが参加した3つの地区大会での優秀サークルである「柏地域福祉サービスセンター」「至誠特養4階」「ケアセンターもとまち」の3サークルでした。

また、至誠ホームのチューター制度を中心とした人材育成に関する研究を、立教大学コミュニティ福祉学部研究科の阿部吉朗さんに発表して頂きました。

当日ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

「小グループ活動の取り組み」

キートスブロック
柏地域福祉サービスセンター

デイサービスは集団活動が主になりがちですが、実際には御利用者一人一人に要望ややりたいことがあります。しかし、個別・小グループの活動を実施するための体制ができていなかった為、なかなか希望に添えない現状がありました。そこで、個別活動を計画的に行うための仕組みや流れを作り、日常の活動の一環として行いました。

今回は全体的に要望が多かった「お出かけ」に焦点を置き、同じ目的の方々2



近所のお店に「お出かけ」して買い物

5名の小グループで近隣の公園や市役所、デパートや昔住まれていた地域等に出かけ、それぞれ趣旨が異なった活動を楽しみました。反響もよく、述べ100名近くの方々に参加できた為、今後も活動プログラムの1つとして取り組んでいきたいと思います。

「私が主人公 ～利用者自身が考える納得できる生活～」

錦ブロック 特養4階介護



利用者の意見交換

利用者の要望や訴えを引き出し、それを生活に反映させ、そして利用者同士が意見交換する中で互いに理解し、4階フロアの生活空間をより利用者の生活しやすいものとするために、利用者同士の話し合いの場をもつことの大切さをテーマとした発表を行いました。

この話し合いを通して、利用者自身が自身の思いを伝え、相手の思いも受け入れることで解決に向け試行錯誤しながらも自分たちの生活を作り上げていくことを実現できる可能性を秘めていることが感じられました。

今後も利用者自身が主人公となり、

自らの生活を作りあげていき、利用者が思う生活の実現を目指していきたいと思います。

「雪解けの時期 ～虐待事例を通して見えてきたもの～」

ミナナブロック
もとまち在宅支援チーム

一昨年度、国分寺の至誠ケアセンターもとまちでは、ケアマネージャーのいる居宅介護支援事業所(居宅)と、国分寺市からの委託事業である地域包括支援センター(包括)の連携に課題がありました。併設で同じ在宅高齢者の相談援助機関でありながら、様々な連携ケースにおいて、一般的な生活支援を担うケアマネージャーと、権利擁護(虐待ケースへの介入・成年後見制度の申し立て支援等)という専門的な支援でケアマネージャーと連携する包括相談員との意見の相違によるすれ違いがありました。

そういった中、昨年度より高齢者虐待の支援を中心に「居宅」と「包括」が「有機的連携」を構築するため、緊密にコミュニケーションを図り、お互いの機関の専門性の理解及び尊重を意識しながら、本来のあるべき姿「居宅」と「包括」の確固たる協力体制を構築する事ができました(↓雪解け)。



平成22年度 第2回利用者相談 委員会が開催され ました

今年度最後の利用者相談委員会では10月以降に寄せられたお手紙について話し合いを行い、今年度のまとめを行いました。

デイホームのトイレのドアを直して欲しい(要望) (L22-05 スオミデイ)

至誠デイケアセンターに寄せられた利用者の方からのお手紙です。

【対応】お手紙を頂戴した後、修理をしました。

【委員からのコメント】 今後は、利用者からの相談がある前に職員で点検をして早めの改善をできることが望ましいです。他の修理との兼ね合いもあるでしょうけれど、利用者の目線で優先順位を考えていく必要があるでしょう。

職員のエモールの低下が目立つ

(苦情・匿名) (L22-06 錦地区本館一階)

挨拶ができない、勤務中の私用での携帯電話の利用、ピアスの着用、マイカー通勤の人がいる、とのご指摘でした。

【対応】お互いに気持ちよく挨拶をすること、感謝の気持ちを表すことを大切にしましょうという内容で回答しました。それを施設内に掲示し、至誠ホームだより296号にも掲載しました。また至誠ホームだよりでは、車での通勤やピアスに関するコメントも掲載しました。

【委員からのコメント】 この返事は、全体としては良いと思いますが、投書した方は、相当の勇気を持って投書したのではないのでしょうか。投書された内容について、もう少し細かい回答をしたほうがよかつたのではないかと思います。投書してまで訴えたいというこの人に響くような内容になつてほしいです。

また、職場でオフィシャルに解決する場はないのか疑問に感じました。職場には管理者がいるでしょうから、上司に相談するという解決方法があるのではないかと思います。なぜ投書に至ったのか疑問にも感じます。

全体として、一般的な対応だけでなく、職員間でマナーなどについて話し合いを持つべきであると思います。ぜひ、ホーム内での検討をお願いいたします。

【ホーム長から】 書いてある内容が事実かどうかわからないが、内容は受け止めていくべきです。指摘されている内容について、もう一度事実確認をし、会議などで至誠ホームとしての対応を改めて検討したい。

平成23年度の第二者委員

平成23年度は、委員長として山田美和子さん、委員として皆口万里子さん、山下清超さんに引き続きお願いいたします。

■報告事項

平成22年度のお手紙は合計8件でした。内訳は、苦情が1件、要望が4件、お礼が2件、その他が1件です。また、苦情受付専用電話への問合せは、2件でした。

■苦情や要望などを伝えたい時は

ご利用の施設や事業所に対して、苦情や要望などを伝えたい時には、次の方法がおすすめです。

①お手紙ポストに投函する…

各事業所(特養、デイホーム、ショートステイなど)に設置されているお手紙ポストに相談内容を書いて投函してください。担当者が週に1度、ポストの中をチェックし、苦情解決責任者や利用者相談委員へ報告し、お返事をさせていただきます。

②苦情受付専用電話…

至誠ホーム内に設置されている専用の電話です。担当者がお話を伺って、ご希望により、苦情解決責任者や利用者相談

委員へ報告・相談をさせていただきます。

③利用者相談委員へ直接電話をする…

各所に掲示してあるポスターに委員の方の電話番号が記載されています。そちらへご相談いただくこともできます。

④市の苦情相談窓口へ電話をする…

立川市福祉保健部高齢福祉課在宅支援係 042-523-2111(内線392)

⑤東京都社会福祉協議会 福祉サービス運営適正化委員会(事務局)に相談する…

03-5283-7020(専用電話)

一番よいのは、まず身近なスタッフに声をかけていただくことです。何か疑問に感じることやお困りのことがございましたら、遠慮なくお声かけください。皆様と共に良い施設を創っていかれるよう努めて参ります。

至誠ホームでは、皆様からのご意見等をお待ちしております。

至誠ホームのサービスに関する
ご意見・ご要望・苦情の窓口

〒190-0022
立川市錦町6-28-15
至誠ホーム「利用者相談委員会」
専用電話 042(527)374
FAX 042(527)2646

後援会コーナー

後援会の皆さまに感謝

毎年の変わらない後援会様からの資金のご支援に感謝申し上げます。

今回は直接至誠ホームへのご寄付を、後援会様を通してお集めいただき、合計100万円に近い金額となりました。こちらの寄付につきましては至誠ホームから領収書をお送りいたしました。また、例年通りの会費からのご寄付は200万円を超える多額のご寄付として頂戴できました。皆様からのご芳情に心から感謝申し上げます。皆様からのご期待に応えることを旨として、お心を至誠ホームの高齢者福祉活動に生かして参ります。

さて本年度は至誠ホーム創設60周年の記念の年となります。6月4日には記念の感謝の集いを計画しております。楽しいイベントを企画しておりますので、どうぞ沢山の会員の皆様のご来園をお待ち申し上げます。

後援会費納入者ご芳名

誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。(敬称略・順不同)

- 早野時枝 小倉洋子 濱崎隼彦
橋本正明 橋本富美子 井上富士子
岡田清 高倉洋子 渡邊典子
春山順子 山下記代子 堀田裕子
以上12名

ボランティア受入/福祉学習協力状況

Table with 3 columns: 種類, 期間, 平成22年度 2月~3月, 平成22年度 累計. Rows include 一般ボラ, インターンシップ, ボランティア体験, 実習・研修, 体験学習, 見学・視察, ご慰問・ご招待.

至誠ホーム利用者状況

(平成23年2月1日~23年3月31日) ():実人数

Large table with 5 columns: 事業内容, 2月, 3月, 累計. Rows are categorized by department (事業部) and service type (事業).

ボランティア活動状況 活動内容別

Table with 3 columns: 活動内容, 期間, 平成22年度 2月~3月, 平成22年度 累計. Rows include 生活支援, 健康づくり, 生き甲斐支援, 地域支援, 行事, 事務等, ボランティア体験, 合計.

ボランティア活動状況地区別

Table with 3 columns: 地区別, 期間, 平成22年度 2月~3月, 平成22年度 累計. Rows include 錦地区, 幸・柏地区, 国分寺地区, 合計.

<> はV体験で内数

*入居施設定員 至誠特別養護老人ホーム150名 至誠ホームキートス70名
至誠ホームミンナ小規模特養29名 至誠和光ホーム50名 至誠ホームスオミ・ケアハウス50名
至誠ホームスオミ・グループホーム9名 至誠ホームミンナグループホーム18名
*高齢者集合住宅シルバーピアしせい15戸 高齢者専用賃貸住宅「楽」7戸

ホーム日誌

平成23年2月1日~平成23年3月31日
CH:ケアハウス, GH:グループホーム
自主研:職員自主研修会

- 2月: ピアタイム(ミンナ)
3月: マーガレットサロンⅢ
5月: サポーター養成講座(もとまち)
8月: サービス向上地区大会(錦Aブロック)
9月: 第三者評価受信(キートス)
10月: コーヒータイム&コンサート
11月: サービス向上大会(キートス)
12月: 井原先生相談日/コミホームサービ
14日: 井原先生相談日/コミホームサービ
15日: 情報公表受審
16日: 和光役員会/杉井弁護士相談日
17日: 錦町芸能文化祭 フラダンスクラブ
22日: サービス向上大会(錦B)
23日: 運営懇談会(CH)/食べ歩きクレス
トホテル(和光)/普通救命講習会
/「おふくろの味・和」(錦特養)
/レーナ・リストライネンさんフィ
ランンドより来園(2/28)
24日: コーヒータイム&コンサート(ミン
ナ)/ボランティア交流会
26日: ぷらつとなみきサロン(ミンナ)/
介護予防教室(もとまち)
3月: ピアタイム(ミンナ)/新任職員研
修(10日)
5日: 至誠ホーム家族会 幹事会(錦特、
和光)
6日: 法人と錦町の合同防災訓練
8日: サービス向上大会(タイムホール)
/杉井弁護士相談日/ホーム委員会
(錦特養)
10日: ありがとうの会(錦特養)
12日: キートス集会
14日: 至誠ホーム防災対策委員会発足
17日: 和光役員会



感謝録

18金 彼岸供養祭
 20日 おもちゃ図書館(キートス)
 22日 全体集会(錦)
 23日 感謝の会(和光) / 運営推進
 24日 会議(ミンナ) / 井原相談日
 コーヒータイム&コンサート
 (ミンナ)
 26日 法人理事会、法人辞令交付式
 29日 高齢者専用賃貸住宅「せせら
 ぎ」入居説明会
 31日 運営懇談会(CH) / シルバ
 ーピアしせい」委託終了

① 金員の部

湯浅静江 濱崎隼彦 田中清
 小川定時・昌子 上野範子
 坂井ミチ子 荒井キミ 鈴木弘子
 下東玲子 園部和子 あゆみの箱
 至誠ホーム後援会会長梅田尚裕
 橋本富美子 13件 (延275件)

② 物品の部

城谷亜代 松田克己 真如苑
 フィンランド大使館広報部
 亀野直子 下東玲子 岩谷淳子
 アビリティーズ・ケアネット(株)会長
 伊東弘泰 渡辺麻子 高橋恵子
 (株)川原経営総合センター「ふくろう
 会」事務局 佐藤京子 三田美代子
 光西寺・渡辺順誠 湯浅静江
 沖睦子 杉本明子 長谷敏子
 日野八重 相田みつを美術館
 松本幸枝 (社) 東京都社会福祉協
 議会東京善意銀行 満田満子
 佐藤達也
 中藤ボランティア会代表小川治代
 御野秀雄 高松明美 川村牧子
 佐藤美貴子 猪狩暉子
 日本エンゼル(株)代表取締役置場和夫
 31件 (延138件)

③ ボランティア

(1) 一般ボランティア (錦地区)

【立川市】エクスセルシオ 菊正会
 錦六茶友会 さわやかグループ
 スズキ・メソッド松井バイオリン音楽
 教室 談話室アイアイ みどりの会
 もみじ会 立正佼成会立川教会婦人部
 朗読サークルこえ
 相田茂子 麻生ミエ 阿部志げ子
 綾部勇 安藤道子 井澤いつよ
 石部トヨ子 糸塚なお 井上孝行
 井上晴美 岩谷淳子 及川悦子
 及川清一 大井田フサエ 大古春子
 大澤康子 大島昭雄 太田利
 小川隆 奥陽子 小栗カツ子
 尾蘭栄子 小保かつ江 表亜由美
 梶浦善江 加藤衣子 加藤典子
 神田京子 神田ミヨ 桔梗みか
 木村玲子 久保田友子 蔵田郁枝
 黒井文子 黒岩優文子 小泉喜与子
 小山真希 近藤庄司 坂本美智子
 佐々木慶吉 佐藤美智子 山同千賀子
 篠原園子 篠村綾子 下東玲子
 下山静子 杉木幸子 鈴木恵子
 鈴木敬司 鈴木幸子 鈴木文
 高久征子 鷹左右元代 鷹左右清道
 高田和彦 高橋恵美子 滝下敏子
 田中千尋 田中由紀子 田原衣子
 遠山百世 戸田フミ子 富山喜久栄
 永森初子 永山幸子 似内フサエ
 野口初子 野村祥子 橋本ライヤ
 坂場雛子 古谷文子 細川光子
 前中美佐子 前中光雄 宮内雅子
 宮下皆子 百瀬千枝 安ヶ平金造
 山岸國麿 山下記代子 山田ハル江
 山本久仁子 吉川厚子 米山勝利
 和田恵美 和田二葉 和田靖史
 和田由杏 渡部調匡 和田靖史
 【日野市】ウケホアヘレ
 池田誠 今井幸子 岩下昭子
 大場春子 大林めぐみ 小澤洋一
 勝又純子 金尾眞砂子 川北きみ
 小塩菊子 阪口満里子 須山ひとみ
 竹内晃二 竹内美幸 竹内靖子
 坪根真由子 直井節 西垣まき子

逸見洋子 宗田尚子 目黒美知子
 吉崎武子 蔵多美智子 国生友子
 【国立市】 末次亜紗美 温品典子
 澤井良子 国分寺婦人Vグループ
 【国分寺市】 前田博美
 安齋恵 ともしび法話会 聖書の会
 【他市】 市川りか子 小室恵里奈
 阿川聰子 丹治信江 中財真紀
 高石ふみ子 舟江信江 松本祥枝
 波田野翔太 久江敏直
 水越恵美 横山久子

延1046名
 【立川市】 阿部志げ子 磯野俊雄
 出浦美代子 大井田フサエ 加藤清
 金子元衛 金三津ゆき子 永山幸子
 宮下皆子
 【日野市】 小澤洋一 延87名
 【立川市】 音楽隊 朗読サークル「こ
 え」おもちゃ図書館 宮シスターズ
 立川マンドリンクラブ 立川ソロ
 ーティスト&立川双葉幼稚園
 青木豊子 荒井和子 生澤清子
 池田三郎 石橋孝子 稲垣明子
 岩田綾子 潤井和子 大家千枝子
 大森千代子 小籠艶子 織原良江
 及川宏克 加賀晴子 笠間久子
 金森耐 菅生佳子 河野美和子
 岸みつ江 菊池正勝 北瀬明子
 木村浩通 絹谷光江 草場久子
 小町志帆 紅林由美子 黒田眞知子
 黒野一十三 神山喜久江 笹田恵子
 坂口洋子 櫻井百合子 三中西博介
 三中西せい子 新林春子 鈴木洋子
 高橋好弘 高橋征子 高橋明子
 高橋真 高橋幸子 高橋妙子
 武井容子 竹内信子 高橋知子
 田中清子 田中秀穂 田中美智子
 田邊シゲ子 塚越格治 辻靖子
 鶴巻清子 遠山久美子 柄エミ子
 鳥居美都琉 中嶋カツ子 中野庸夫
 永沢真由美 成田綴 服部ちづ子
 羽村ミサ子 松原菜都子 平野信子
 別府ひろ子 古島清子 丸山淳子

溝口礼子 宮坂一栄 宮島君代
 持丸治 持丸弘子 元島美子
 桃野幸子 山口弘子 結城早苗
 横川澄子 相澤秀子 井上允恵
 【国分寺市】 小野千代 大山勝美
 小野俊雄 小野千代 中山淳子
 勝倉ナホミ 鈴木小波 福岡美智子
 藤本俊郎 藤本睦代
 山本佳子 藤本睦代
 【他市】 ロゼラニ・ウイングス
 花島芸芸 準ちゃんの歌会
 井上玲子 内田喜美子 内田純子
 大橋とし江 久保誓山 児玉早苗
 佐々木染子 鈴木真弓 高野信子
 高橋桂子 林幸子 土方和子
 肥田木雅子 保坂栄子 吉岡正晶
 吉岡真紀 横川好行 渡辺保子
 山本美佐子 延792名
 【立川市】 音楽隊 朗読サークル「こ
 え」おもちゃ図書館 宮シスターズ
 立川マンドリンクラブ 立川ソロ
 ーティスト&立川双葉幼稚園
 青木豊子 荒井和子 生澤清子
 池田三郎 石橋孝子 稲垣明子
 岩田綾子 潤井和子 大家千枝子
 大森千代子 小籠艶子 織原良江
 及川宏克 加賀晴子 笠間久子
 金森耐 菅生佳子 河野美和子
 岸みつ江 菊池正勝 北瀬明子
 木村浩通 絹谷光江 草場久子
 小町志帆 紅林由美子 黒田眞知子
 黒野一十三 神山喜久江 笹田恵子
 坂口洋子 櫻井百合子 三中西博介
 三中西せい子 新林春子 鈴木洋子
 高橋好弘 高橋征子 高橋明子
 高橋真 高橋幸子 高橋妙子
 武井容子 竹内信子 高橋知子
 田中清子 田中秀穂 田中美智子
 田邊シゲ子 塚越格治 辻靖子
 鶴巻清子 遠山久美子 柄エミ子
 鳥居美都琉 中嶋カツ子 中野庸夫
 永沢真由美 成田綴 服部ちづ子
 羽村ミサ子 松原菜都子 平野信子
 別府ひろ子 古島清子 丸山淳子

【キートス】 立川市立立川第八小学校 (35名)
 一ノ宮将紀 萩原蓮 宮島香
 延42名
 【柏センター】 なし
 【ミンナ】 なし
 【もとまち】 なし
 (1) 実習研修
 ◎社会福祉士
 日本放送協会学園社会福祉士養成課程
 増田妙子(12日) / 十文字学園女子大
 学 馬場光(10日) / 中央福祉学院
 阿部美津子(23日)
 ◎介護福祉士
 淑徳短期大学 地引亜貴(18日)
 ◎ユニトリーター研修
 大嶋哲夫・大貫貢・萩原光仁・加治佐
 友里・岩佐まさ子・長島文明・古屋智
 子・松本章宏・山田愛美・長岡美和子
 ・石田ひとみ・繁里弘喜・甲斐由香里
 ・小野寺緑・後藤礼・齋藤亜希子・館
 坂壽美子・丹治昌子(各5日)
 ◎訪問介護員養成研修2級課程
 ごとくの会 4名(各1日) / 東京家
 政学院大学 2名(各1日) / 地域福
 祉サービス協会4名(各3日)
 ◎その他の実習
 東京YMCA医療福祉専門学校作業療
 法実習 志村黎奈(3日) / 滝乃川学
 園成人部 職員研修4名(各4日) 1
 名(5日) 延195名
 (2) 体験学習 なし
 (3) インターナシップ
 嘉悦大学短期大学 2名(各5日)
 (4) 見学・視察
 社会福祉法人キングス・ガーデン埼玉
 特別養護老人ホーム川口キングス・ガ
 ーデン埼玉6名 / イギリスロンドン大
 学 Dr. Howard Goodall 他2名 / 特別養
 護老人ホーム清明園8名 / 特別養護老
 人ホームプレジールの丘1名
 計17名 累計329名
 (5) ご慰問・ご招待
 国際ソロプチニミスト立川、立川女子高
 校、至誠保育園からヒヤシンスの恵贈
 計1件 累計4件

福祉学習協力

地域包括支援センターコーナー

立川市北部中さいわい地域包括支援センター042(538)2339
 立川市にしき福祉相談センター042(527)0321
 国分寺地域包括支援センターもとまち042(301)5001
 国分寺地域相談センターなみき042(300)3702

「お慶い様ごまがべいらをめぐって」

立川市北部中さいわい地域包括支援センター 藤井 一輝

東日本大震災の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

今年の3月11日の大地震では、地域包括支援センターや介護相談センターでも、一人暮らしの方や介護保険サービスを使っていて心配な方々に連絡、訪問をして安否の確認をしていました。

筆筒や冷蔵庫の上の物が落下した、仏壇が倒れてきた、2階の棚の物が散乱した、等の被害は聞かれましたが、直接生命に関わるような被害はありませんでした。しかし、一人暮らしの方でガスが止まり、復旧方法が分からず困ってしまったこともありました。

翌週の停電については、住所地の停電のエリアが送電線の関係ではつきりせず、問い合わせが市役所や地域包括支援センターに集中し、結局は境界が不確かな地域は一度停電になってみないと分からない、という結論でした。

地域の介護サービス事業者では、停電の影響でデイサービスが一時中止したり、配食サービスもガソリン不足で一時営業を中止したりしました。ヘルパーに買い物を頼んでいる方もパンや米等がなくて、困ったりしました。

立川市や国分寺市では「災害時要援護者登録制度」があります。登録対象は市によって若干違いますが、概ね①一人暮らしで65歳以上の高齢者等 ②寝たきりなどで要介護認定3、4、5の方 ③心身等に障害がある方 ④その他の理由で災害時に情報収集や避難が出来ず、支援を必要とする方等です。

登録は市役所（問い合わせは立川市が防災課、国分寺市はくらしの安全課まで）や最寄りの地域包括支援センター等で行えます。災害時は市の福祉、防災各機関や民生委員、自治会等に情報が提供されて活用されることとなります。

至誠ホーム調布若葉ケアセンター 地鎮祭



至誠デイケアセンター
 センター長・準備室長

河合 晴夫

平成23年2月15日（火）に至誠ホームにて入札を行い、松井建設株式会社が落札しました。3月1日（火）には、調布市若葉町にある東部公民館で、松井建設と調布市役所の関係部署の方々にもご列席の上、近隣の方々に工事説明会を行いました。

3月8日（火）の午後、晴天に恵まれた若葉町の現地に、産土神社である糟嶺神社の宮司にお越し頂き、若葉町の自治会長など近隣の方々にも参加していただき、厳かに地鎮祭を執り行い工事の安全を祈願いたしました。

3月11日（金）の地震の影響で工事務所の建設の遅れや資材の搬入の不透明な面がありますが、3月中旬に着工が始まり、10月末の竣工を目指して工事が進んでいます。

また立川市では市内在住、在勤等の方を対象に「立川見守りメール」を配信し、登録された携帯電話等に随時防災・防犯の情報を電子メールで配信するサービスも行っていきます。詳しくは市役所ホームページでご確認下さい。

まずは、震災に備えて、家具転倒防止器具や火災警報器等、自宅内の整備を行

い、自治会の集まりに参加したり、隣近所の具体的な協力体制を確認しておく、と良いと思います。また地域の一時集合場所、広域避難場所、収容避難所もそれぞれ確認しておくこと、防災の三助（自助、共助、公助）を日頃から積み上げておくことも大切です。